

結いの心は自治の心

牧野直子

歴史の曲がり角に立って

「結みのお」は今年2月、設立10周年を迎えました。この10年を振り返ってみると、民主党による初めての政権交代があり、その後東日本大震災、いわゆる原発震災が起きました。また目を転じると、アメリカではオバマ政権からトランプ政権に代わり、イギリスではEU離脱の国民投票をめぐり、いまだに紛糾しています。そして、フランスでも政権に対して民衆の大きな抗議行動が起きています。今、世界は混沌としています。そんな中で、天皇退位を目前に控え、元号が「平成」から「令和」へ変わろうとしています。今私たちは歴史の曲がり角に立っていることをあらためて実感しています。

選挙による民意とは

大阪市長・府知事のダブル選挙が行われました。脱法行為という批判がある一方、結果的には大阪維新が大きく勢力を拡大しました。また、私たちの住む箕面では、府議会議員選挙で現在の2議席に新たな立候補者が出ず、無投票となりました。情けないことです。そう言えば他の自治体でも選挙が行われなかった自治体が多かったと聞きます。1票に自分の声を反映させることができない状況をつくり出した責任の一端はこの自分にもあると、後悔が残ります。これを機に、「自分たちは大阪をどういうまちにしたいのか?」「箕面をどういうまちにしたいのか?」共に考え、語り合う場をつくりたいものです。その延長上に選挙があり、政治があるはずです。

「結いの心」を読み返す

「結みのお」のネーミングの元となった「結いの心」(郷田實・郷田美紀子共著)をあらためて読み直しました。宮崎県綾町元町長の故郷田實さんは、1966年から1990年まで町長として、綾町を「有機農業のまち」「照葉樹林都市」として先駆的なまちづくりをしてこられました。その柱となったのが、戦前の「結い」

という日本の自主的な助け合いの地域組織です。高度成長期に忘れられたこの「結い」をキーワードに生涯学習や自治公民館活動を通して、町民が自治意識を高めていくことに尽力し、補助金には頼らない住民自身の発想を活かしたまちづくりを行ったのです。私が綾町を訪問したのは議員時代でした。郷田實さんの亡き後、お父さんの遺志を継いで美紀子さんが綾町の自然を残すために尽力されてこられました。私が「結みのお」を立ち上げたとき、彼女からお祝いのメッセージが送られてきました。

自治の心とは?

「地方自治は民主主義の学校」と言われています。まずは自分の住んでいるまちをどうしたいのか?そのことが出発点となり、いずれは国の政治を動かしていくのが本来の姿でしょう。今沖縄では、県民投票が行われた結果、地元の民意が示されたにもかかわらず、国がそれに聞く耳を持つともしません。沖縄では「結い」は「結いまーる」といわれ、今もその精神は生きており、自治意識は強いはずですが、沖縄の現状は決してよそ事ではありません。

「結みのお」でできることは?

今年度の総会の後、多くの方がアンケートはがきでお返事を返してください、カンパや会費を送ってください。会員の方々と距離が縮まったように感じています。「自分にできることはないか」と考えてください、できることをしようという機運の高まりを心強く感じています。箕面という地域を多くの仲間と共に耕してきました。耕したところに自治の芽が育つのはこれからです。

「結いの心は、また自治の心でもあります。自分たちのことは、足りないものがあればお互いに足し合せて自分たちで取り組んでいくのでなければ自治とは言えません」(郷田實)そんなお互いに足し合っていける社会を次世代に残していきたいものです。